

2025 年第 38 週の報告です。

伝染性紅斑の定点当り報告数は、京都府は今週 0.81 件に減少し、警報の継続基準値を下回りました。全国と中丹西・中丹東の各保健所では警報レベルが継続しています。山城北では咽頭結膜熱が 6.00 件報告され、新たに警報レベルとなっています。

全数報告対象の疾患は、結核が 4 件、腸管出血性大腸菌感染症・劇症型溶血性レンサ球菌感染症・水痘（入院例）がそれぞれ 1 件、梅毒が 4 件、百日咳が 16 件報告されました。

咽頭結膜熱は、38℃以上の高熱、のどの痛み、結膜炎といった症状を起こすアデノウイルス感染症です。保育園など集団生活をする子どもの間で夏季に流行することが多い病気ですが、秋～冬季にかけて流行することもあります。現状は、全国的な流行は見られませんが、京都府では 9 月に入って上昇傾向にあり、上記のとおり一部地域で報告数が警報レベルに達しているので注視しているところです。

また、RS ウイルス感染症も京都府において第 32 週（8 月 4 日～10 日）から 6 週連続増加しており、全国的にも増加～高止まりの状況です。この疾患は、主に 0～2 歳の小児で流行する呼吸器感染症ですが、大人も何度も感染します。多くは発熱、鼻汁、咳などの軽い上気道症状が数日続く程度ですみませんが、初感染の小児や基礎疾患を持っている方で重症化することもあります。

咽頭結膜熱も RS ウイルス感染症も、そして多くの呼吸器感染症においても、予防には流水・石けんによる手洗い、日常的に触れる手すり、子どもの玩具、手指などのアルコール等による消毒、症状がある場合のマスクの着用など基本的な感染対策が有効です。これからの季節は呼吸器感染症が増加しますので、これらの対策を心がけるようにしましょう。